

平成 23 年度 いじめ等の現状と対策について

- | | | |
|-----|-----------------------|----|
| I | 横浜市の暴力行為の現状と対策 | P1 |
| II | 横浜市のいじめの現状と対策 | P2 |
| III | 横浜市の不登校の現状と対策 | P5 |
| IV | 小学校の児童支援専任配置校と未配置校の比較 | P7 |

※それぞれの項目の数値は、文部科学省が実施する「平成 23 年度児童生徒の問題行動調査等児童生徒上の諸問題調査」をベースとしている。

I 横浜市の暴力行為の現状と対策について

1 暴力行為の定義

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、次の4形態に分類し調査しています。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は対象外とします。

- ①「対教師暴力」、②「生徒間暴力」、③「対人暴力」、④「器物損壊」

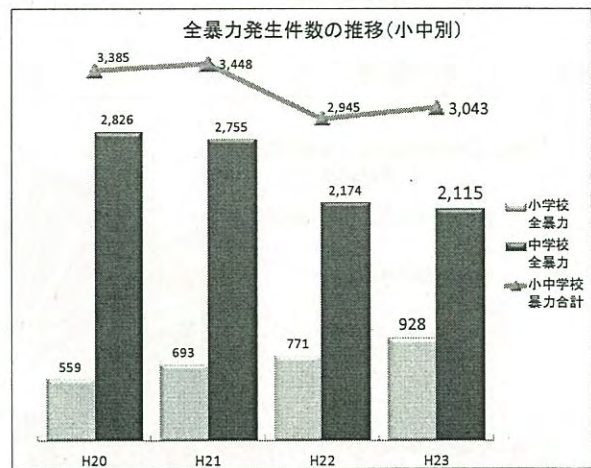
2 現状と背景

(1) 平成23年度の暴力行為の発生状況

- 全暴力の発生件数は**3,043件**
- 小学校で**928件**、中学校で**2,115件**
- 中学校では、発生件数が**3年連続の減少**
- 中学校の全暴力の発生件数は、**過去7年間で最少**
- 中学校の器物損壊は、**過去7年間で最少**
- 中学校の対教師暴力は、**過去7年間で最少**
- 平成22年度から小学校への児童支援専任教諭配置が始まり、**実態把握が進んだ**
- 小学校では、発生件数の増加が続いており、**前年度比で20.4%増加**している。

(2) 暴力行為の推移

	年度	学校数	発生件数	増減率(%)	
暴力行為全体	小学校	20	346	559	40.5%
		21	346	693	24.0%
		22	345	771	11.3%
		23	345	928	20.4%
	中学校	20	145	2,826	14.7%
		21	145	2,755	-2.5%
		22	146	2,174	-21.1%
		23	148	2,115	-2.7%
	計	20	491	3,385	18.3%
		21	491	3,448	1.9%
		22	491	2,945	-14.6%
		23	493	3,043	3.3%



3 暴力行為対策の取組

➤ 毅然とした対応 ⇒

- 児童生徒の器物損壊にかかる費用弁済会計処理システム
《社会的責任の自覚を促すことを目的に、平成17年9月に制定》
- 児童生徒の健全育成に関する警察と学校の相互連携制度
《児童生徒の非行防止、被害防止、健全育成を目指し、平成16年11月制定》

➤ 職員体制の充実 ⇒

- 小学校への児童支援専任教諭の配置
《平成24年度は210校、平成26年度までに全校配置》
- 中学校への生徒指導専任教諭の配置
《昭和48年度から全校配置》

➤ 教育相談体制の充実 ⇒

- 一般教育相談(電話相談)
- スクールカウンセラーの活用
- 各区教育相談事業の充実

➤ 教職員の研修・意識啓発 ⇒

- 「児童・生徒指導の手引」《平成21年3月》
- 児童支援・生徒指導専任教諭 夏期研修会
《平成24年8月1日～8日 各方面2日間》

➤ 暴力行為の未然防止 ⇒

- 子どもの社会的スキル横浜プログラムの普及推進
《社会性や規範意識の向上》

Ⅱ 横浜市のいじめの現状と対策について

1 いじめの定義

「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」

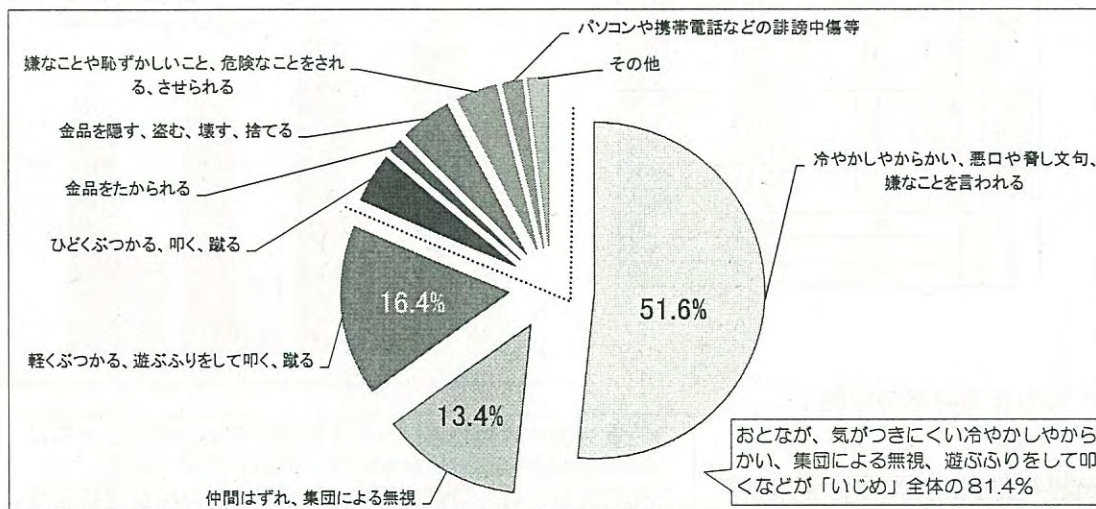
2 現状と背景

(1) 平成 23 年度のいじめ認知状況

- 認知件数は2,161 件（前年度より 61 件増）
- 小学校で1,324 件、中学校で837 件
- いじめの年度内解消率は、92.6%（小学校 93.8%、中学校 90.8%）
- いじめの態様は、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」や「軽くぶつかる、遊ぶふりをして叩く、蹴る」、「仲間はずれ、集団による無視」など、おとなが、気がつきにくい悪口や嫌がらせが「いじめ」全体の 81.4%を占める。

※ 平成 22 年度は、児童支援専任教諭の配置や全教職員を対象にした調査（いじめ解決一斉キャンペーン）の実施により、隠れていたいじめが発見され、認知件数が大幅に増加した。

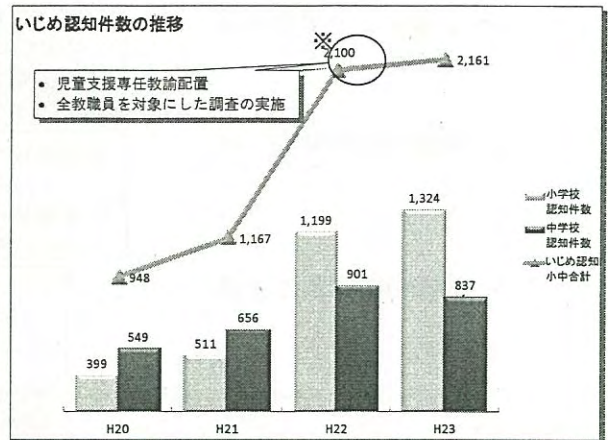
(2) いじめの態様



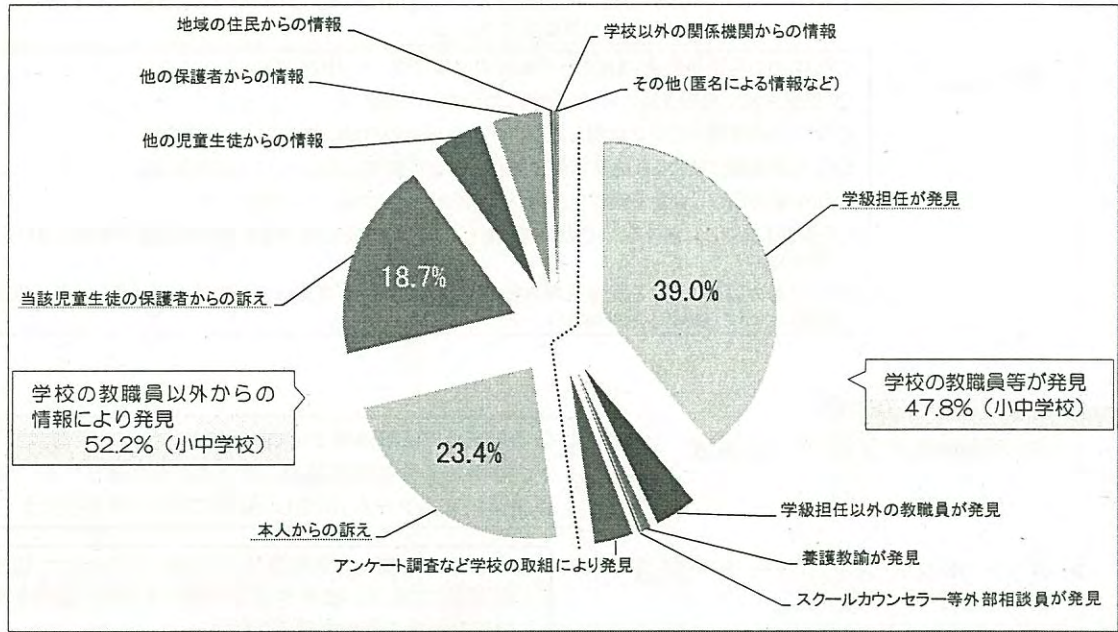
いじめの態様 [複数回答]	H20	H21	H22	H23
	構成比	構成比	構成比	構成比
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	40.3%	45.0%	53.9%	51.6%
仲間はずれ、集団による無視	19.8%	16.5%	15.1%	13.4%
軽くぶつかる、遊ぶふりをして叩く、蹴る	13.7%	15.7%	14.6%	16.4%
ひどくぶつかる、叩く、蹴る	4.7%	4.6%	4.0%	4.8%
金品をたかられる	1.7%	2.1%	1.0%	1.3%
金品を隠す、盗む、壊す、捨てる	6.3%	5.1%	3.7%	4.9%
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる、させられる	5.3%	4.9%	3.7%	3.8%
パソコンや携帯電話などの誹謗中傷等	6.6%	4.6%	2.0%	1.9%
その他	1.6%	1.4%	1.9%	2.0%

(3) いじめの推移

校種	年度	学校数 A	認知件数 B	認知件数増減率	1校あたりの認知件数 B/A	1000人あたりの認知件数
小学校	20	346	399	-9.7%	1.2	2.1
	21	346	511	28.1%	1.5	2.6
	22	345	1,199	134.6%	3.5	6.2
	23	345	1,324	10.4%	3.8	7.0
中学校	20	145	549	-1.1%	3.8	7.3
	21	145	656	19.5%	4.5	8.6
	22	146	901	37.3%	6.2	11.7
	23	148	837	-7.1%	5.7	10.5
計	20	491	948	-4.9%	1.9	3.5
	21	491	1167	23.1%	2.4	4.3
	22	491	2100	79.9%	4.3	7.8
	23	493	2,161	2.9%	4.4	8.0



(4) いじめ発見のきっかけ



区分	H20	H21	H22	H23
	構成比	構成比	構成比	構成比
学校の教職員等が発見	37.1%	38.6%	50.2%	47.8%
学級担任が発見	25.8%	28.1%	41.9%	39.0%
学級担任以外の教職員が発見	8.3%	7.9%	4.5%	4.0%
養護教諭が発見	1.3%	1.5%	0.5%	0.9%
スクールカウンセラー等外部相談員が発見	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%
アンケート調査など学校の取組により発見	1.3%	0.8%	3.0%	3.7%
学校の教職員以外からの情報により発見	62.9%	61.4%	49.8%	52.2%
本人からの訴え	25.0%	25.1%	24.8%	23.4%
当該児童生徒の保護者からの訴え	24.2%	22.7%	17.0%	18.7%
他の児童生徒からの情報	7.1%	6.7%	4.7%	4.7%
他の保護者からの情報	5.9%	6.2%	3.0%	4.6%
地域の住民からの情報	0.6%	0.3%	0.1%	0.3%
学校以外の関係機関からの情報	0.0%	0.3%	0.1%	0.3%
その他(匿名による情報など)	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%

3 いじめ対策の取組

- 早期発見・早期対応 ⇒
 - 児童生徒を対象にしたアンケートの実施
《定期的に児童生徒から直接状況を聞く機会》
 - 全教職員を対象にした調査の実施
《いじめ等で悩んでいる児童生徒を見落としていないか確認》
- 職員体制の充実 ⇒
 - 小学校への児童支援専任教諭の配置
《平成 24 年度は 210 校、平成 26 年度までに全校配置》
 - 中学校への生徒指導専任教諭の配置
《昭和 48 年度から全校配置》
- 教育相談体制の充実 ⇒
 - いじめ 110 番（電話相談）
《平成 19 年から、365 日 24 時間対応》
 - 一般教育相談（電話相談）
 - スクールカウンセラーの活用
 - 各区教育相談事業の充実
- 教職員の研修・意識啓発 ⇒
 - 「児童・生徒指導の手引」《平成 21 年 3 月》
 - 児童支援・生徒指導専任教諭 夏期研修会
《平成 24 年 8 月 1 日～8 日 各方面 2 日間》
- いじめの未然防止 ⇒
 - 子どもの社会的スキル横浜プログラムの普及推進
《社会性や規範意識の向上》
- 学校通知 ⇒
 - 「いじめの早期発見・早期対応への取組の徹底について」(H24.07.13)
 - 「児童生徒の自殺予防に向けた取組について」(H24.07.18)
 - 「いじめの問題への対応に関する文部科学大臣談話の周知について」(H24.07.18)
 - 「いじめ問題に関する校内研修会の実施状況及び実施計画について」(H24.07.20)
 - 「いじめの問題に関する教育委員会からのメッセージについて」(H24.07.20)
 - 「長期休業明けにおける『いじめ』の早期発見・早期対応と自殺予防に向けた取組の徹底について」(H24.08.24)
 - 「いじめの問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に係る緊急調査について(依頼)」(H24.08.24)

4 重篤ないじめへの対応

- 学校課題解決支援チーム派遣 ⇒
 - ◎学校だけでは解決等が困難な事案に対して、教育委員会が、指導主事や学校支援員、専門家から編成される「学校課題解決支援チーム」派遣し、解決に向けた支援を行う
- スクールソーシャルワーカー派遣 ⇒
 - ◎いじめの背景にある児童生徒が置かれた様々な環境の問題に対して、教育や福祉に関する知識と技術を用いての解決に向けた支援を行う
- スクールスーパーバイザー派遣 ⇒
 - ◎教育や心理の専門家を派遣し、教員の問題解決能力の向上と学校での相談機能充実に向けた支援を行う
- 専門相談 ⇒
 - ◎教育に関する心理・医療の専門的な相談を行う
- 第三者委員会 ⇒
 - ◎大学教授等の教育学、心理学、医学等の専門家で構成され、いじめに関する緊急事態への対応策や関連事業の推進について検討を行う
《H8 発足『いじめ問題等連絡会議』》

5 いじめを受けて困っている児童生徒が相談できる窓口



Ⅲ 横浜市の不登校の現状と対策について

1 現状と背景

(1) 平成23年度の不登校児童生徒数

- 不登校児童生徒数は3,690人
(小学校 1,040人、中学校 2,650人)

【不登校の定義】

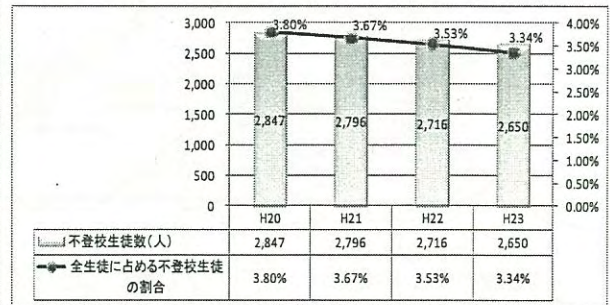
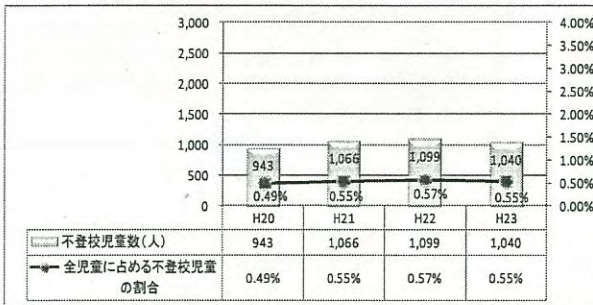
「4月1日から3月31日までの1年間に連続又は断続して30日以上欠席した児童・生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にあること」

(2) 不登校児童生徒数の推移

- 中学校では、全生徒数に占める不登校生徒の割合が3年連続減少

【小学校】

【中学校】



(3) 不登校生徒(中学3年生)の進路の状況(平成22年度…23年度数値は未確定)

進路先	人数	内 訳
公立高等学校	511	全日制 97、 定時制 232、 通信制 182
私立高等学校	298	全日制 124、 定時制 4、 通信制 170
特別支援学校	17	
専修・各種・高等専門学校	76	
就職等	39	
上記以外の機関・団体	14	
その他	123	
合 計	1078	

902人
進学率
83.7%

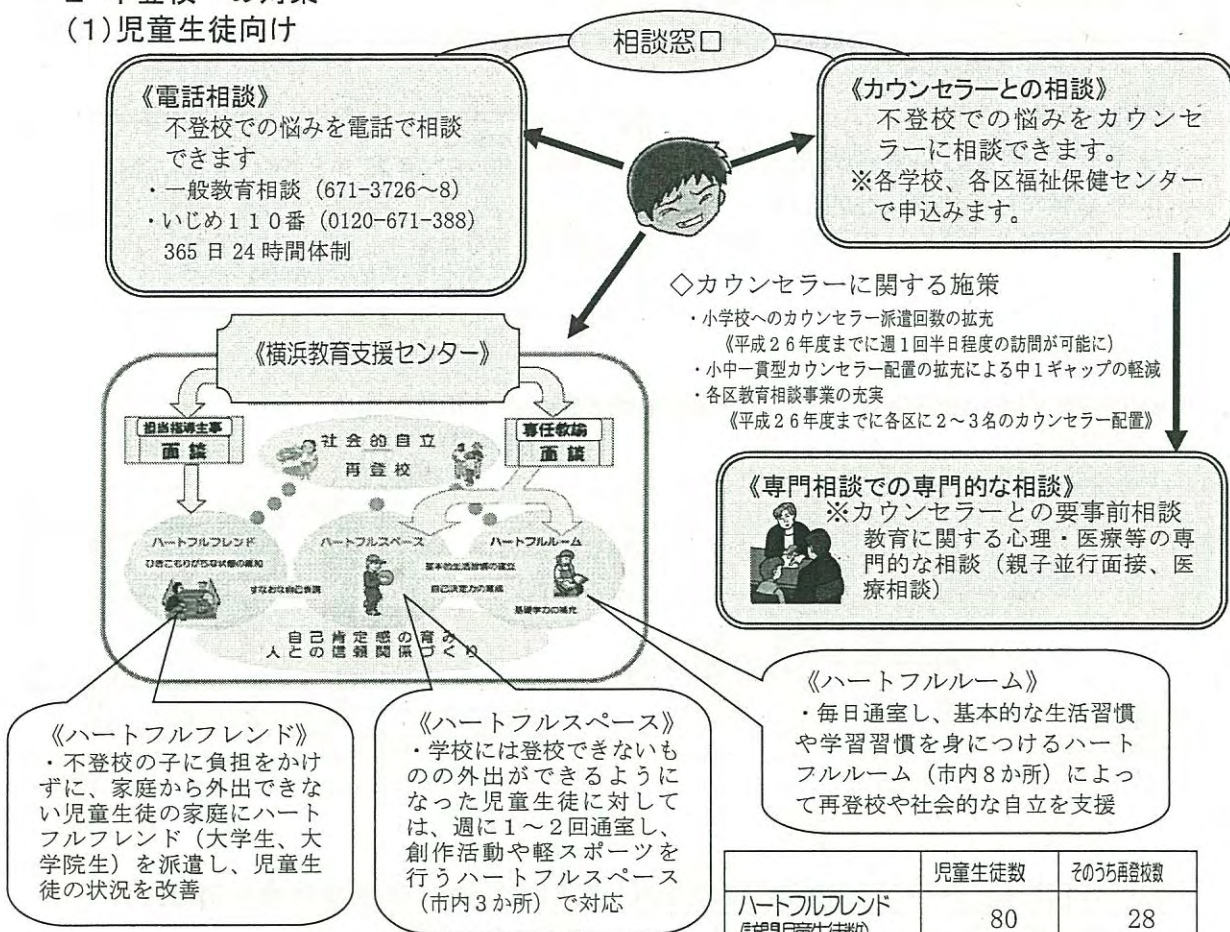
(4) 不登校となったきっかけと考えられる状況(平成23年度)

- ①学校生活上では、「友人関係をめぐる問題」が最多。
- ②家庭生活上では、「親子関係をめぐる問題」が最多。
- ③本人の問題では、「不安など情緒的混乱」が多い。

*友人関係や親子関係をめぐる問題を抱え、不安になっている児童生徒が不登校になるケースが多い

2 不登校への対策

(1) 児童生徒向け



(2) 保護者向け

- 電話相談（前掲）※いじめ110番24時間体制は児童生徒向け
- カウンセラーとの相談・専門相談（前掲）
- 横浜教育支援センターでの支援（前掲）
- 不登校と一緒に考える「保護者の集い」の開催（年6回開催）
- 不登校と一緒に考える「保護者向けパンフレット」の発信及び活用 ※平成22年度よりホームページに掲載

(3) 学校(教職員)向け

- 不登校対策アクションプランの推進
 - ・各学校が不登校対策アクションプランを基に、魅力ある学校づくり・学級づくり等予防的な取組を進めるとともに、不登校児童生徒一人ひとりの状態に合わせて登校支援アプローチプランを作成し、全教職員の共通理解のもと、再登校支援を進めます。
- 職員体制の充実
 - ・小学校への児童支援専任教諭の配置《平成24年度は210校、平成26年度までに全校配置》
 - ・中学校への生徒指導専任教諭の配置《昭和48年度から全校配置》
- 教育相談体制の充実（前掲）
- 教職員の研修・意識啓発
 - ・不登校予防ハンドブック action の発信及び研修会等での活用
 - ・不登校児童生徒理解研修の開催（年8回開催）
- スクールスーパーバイザーの派遣
 - ・教育や心理の専門家を学校に派遣し、教員の問題解決能力の向上と学校での相談機能の充実を支援
- スクールソーシャルワーカーの活用
 - ・児童生徒が置かれた様々な環境の問題に対して、教育や福祉に関する専門的な知識と技術を用いてアプローチし、学校の課題解決の力を高める。

IV 小学校の児童支援専任教諭配置校と未配置校の比較（平成 23 年度）

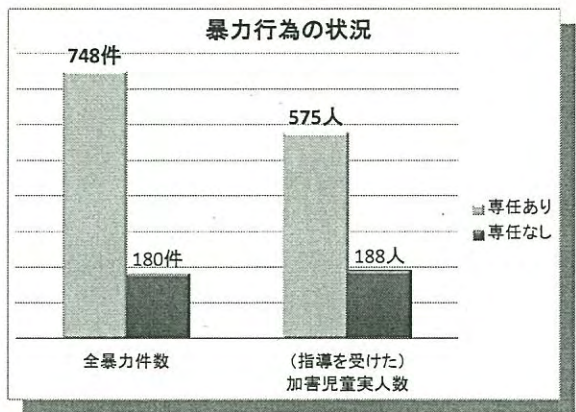
1 児童支援専任教諭の配置

- 平成 22 年度から、市立小学校に児童支援専任教諭配置をスタート
- 平成24 年度（現在）は、配置校が 210 校、未配置校は 135 校
- 平成 26 年 4 月に、全市立小学校に配置完了予定



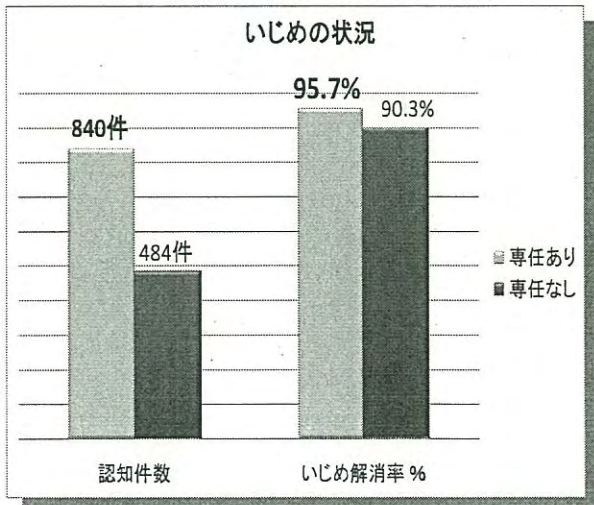
2 暴力行為

- 配置校で把握した暴力行為は 748 件 で、未配置校 180 件の 4.2 倍
- 加害行為で指導を受けた児童は、配置校で 575 人、未配置校で 188 人



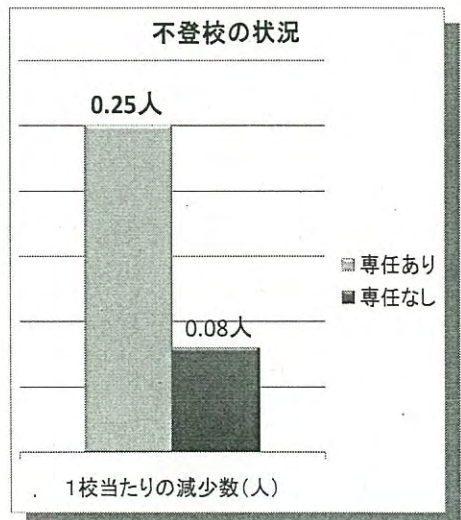
3 いじめ

- 配置校が認知したいじめの件数は 840 件 で、未配置校の 484 件の 1.7 倍
- いじめの解消率は、配置校が 95.7%、未配置校では 90.3% と 5.4 ポイントの差
- 配置校で解消されたいじめは 804 件、未配置校 246 件の 3.3 倍



4 不登校

- 不登校の 1 校当たりの減少数は、配置校で 0.25 人、未配置校では 0.08 人





取扱注意		
解禁	テレビ・ラジオ・ 通信社・インターネット	9月11日(火)17時以降
	新聞	9月12日(水)朝刊

平成24年9月11日
教育委員会事務局
人権教育・児童生徒課

平成23年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査*

「暴力行為」・「いじめ」・「不登校」の状況調査結果

※ 昭和57年から文部科学省が開始した児童生徒の問題行動等について全国の状況を把握する調査

★ 中学校での

暴力行為の発生件数が3年連続減少[対20年度711件減(▲25.2%)]

(20年度2,826件→21年度2,755件→22年度2,174件→23年度2,115件)

器物損壊は過去10年間で最少、対教師暴力は過去7年間で最少

★ 小学校での

いじめの認知件数は増加[対前年度125件増(10.4%)]

(22年度1,199件→23年度1,324件)

★ 小中学校での

不登校が125人減少

中学校では3年連続減少[対20年度197人減(出現率▲0.46%)]

(20年度2,847人[出現率3.80%]→23年度2,650人[出現率3.34%])

1 暴力行為の発生状況

- ・ 児童支援専任教諭の配置及び小中学校合同の研修会等により、小中学校が一貫して一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導を行うようになったことや、関係機関との協定書*に基づく緊密な連携による毅然とした指導、器物損壊に対する費用弁償を含む指導プログラムの実施等が、暴力行為の減少に効果を上げています。
 - ・ 中学校での「器物損壊」は3年連続して減少し、平成20年度の半分にまで減少しました。
 - ・ 繰り返し暴力行為を起こした児童生徒(5件以上の暴力)による暴力の発生件数は、小学校で全暴力行為発生件数の35.1%、中学校で13.0%と、小学校で特定児童による暴力の繰り返しが顕著です。
- ※ 児童生徒の健全育成に関する警察と学校の相互連携に係る協定書(平成16年11月1日締結)

2 いじめの認知状況

- ・ いじめの認知件数の増加は、「いじめ解決一斉キャンペーン」の実施等により、教職員の意識が高まり児童生徒の状況を注意深くとらえた結果も大きく影響していると考えられます。
- ・ 教職員の意識の高まりにより、いじめの早期発見・早期対応の取組が推進され、それによりいじめの年度内解消率が92.6%に上昇したと考えられます。

3 不登校児童生徒の状況

- ・ 不登校児童生徒数は小学校で59人、中学校で66人減少しました。
- ・ 不登校の減少は、「不登校対策アクションプラン」に基づく早期発見、早期対応と教職員の継続的な対応や、横浜型小中一貫教育の推進による小中連携、小中一貫型カウンセラー配置などによる予防・対応策の成果といえ、事実、中1で新たに不登校になった生徒数は378人と48人減少しました。指導の結果、登校できるようになった児童生徒は、小学校で526人、中学校では1,133人となっています。

お問い合わせ先

教育委員会事務局人権教育・児童生徒課長 酒井 徹

Tel 045-671-3706

1 横浜市の暴力行為の発生状況【概要】

- 暴力行為の発生件数は、小学校で増加傾向、中学校で減少傾向が見られます。
- 小学校での暴力行為は、発生件数で前年度比 20.4%増です。
 - ・ 小学校では、絶対数の小さな「対人暴力」を除くすべての暴力行為で、発生件数の増加が認められ、特に生徒間暴力については 28.9%と大幅に増加しています。児童支援専任教諭の配置が拡大されたことから、今まで発見できなかったものが明らかとなるなど、組織としての把握や対応が進んだことが影響していると考えられます。
- 中学校での暴力行為発生件数は前年度比 2.7%減です。
 - ・ 中学校では、平成 21 年度以降、減少傾向が続いています。器物損壊については 7.8%減であり、また、対教師暴力は平成 17 年度以降では最少の件数となりました。
- 暴力行為が多発する学校では、特定の児童生徒が暴力行為を繰り返す傾向が顕著です。
 - ・ 一件あたりの加害児童生徒数（加害実人数）は、小学校全体で 0.82 人、中学校全体で 0.79 人と暴力行為の個別化・個人化の傾向が認められます。15 件以上の暴力行為が報告されている小学校では 0.60 人、30 件以上の暴力行為が報告されている中学校では 0.61 人とさらに少なく、特定の児童生徒による暴力行為が繰り返される学校で、暴力行為の発生が増加する傾向にあります。
 - ・ 繰り返し暴力行為を起こした児童生徒（5 件以上の暴力）による暴力の発生件数は、小学校で全暴力行為発生件数の 35.1%、中学校で 13.0%と、小学校で特定児童による暴力の繰り返しが顕著です。
- 「器物損壊」の発生件数は、中学校では 3 年連続して減少しています。
 - ・ 「器物損壊」の発生件数は、中学校では過去 10 年間で最少であり 3 年連続して減少し、平成 20 年度（1,070 件）の約半分（534 件）になりました。

※ 「児童生徒の器物損壊にかかる費用弁済会計処理システム」の活用など、児童生徒に社会的な責任の自覚を促す指導が積極的に行われています。特に平成 20 年度以降、中学校での運用実績の増加が顕著です。

◎「児童生徒の器物損壊にかかる費用弁済会計処理システム」(平成 17 年 9 月制定)の運用実績

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
小学校	32 件	25 件	20 件	25 件	30 件	31 件	56 件
中学校	50 件	78 件	64 件	102 件	129 件	124 件	126 件

- 暴力行為の傾向として、
 - ① 自分の感情がコントロールできず、衝動的、突発的に暴力行為に至る例が見られます。自分の気持ちを上手く伝えることができない、相手の気持ちを理解できないなど表現力、コミュニケーション能力の未熟さがうかがえます。
 - ② 些細なことから、自尊心が傷つけられたと感じ、攻撃的になり暴力行為に発展する例が見られます。(教職員に注意されたことから憤慨して、対教師暴力に至るなど)
 - ③ 特定の児童生徒が暴力を繰り返す学校で、暴力行為が多発する傾向が見られます。

(1) 全暴力行為の発生件数（4 形態の暴力行為）

- 小学校で 928 件（20.4%増）、中学校で 2,115 件（2.7%減）、全体で 98 件、3.3%の増加です。

	H20	H21	H22	H23	増減件数	増減率
小学校	559	693	771	928	157	20.4%
中学校	2,826	2,755	2,174	2,115	-59	-2.7%
計	3,385	3,448	2,945	3,043	98	3.3%

(2) 対教師暴力の発生件数

- 小学校で 117 件（1.7%増）、中学校で 253 件（1.9%減）、全体で 3 件、0.8%の減少です。

	H20	H21	H22	H23	増減件数	増減率
小学校	86	103	115	117	2	1.7%
中学校	361	393	258	253	-5	-1.9%
計	447	496	373	370	-3	-0.8%

(3) 生徒間暴力の発生件数

■ 小学校で 602 件 (28.9%増)、中学校で 1,309 件 (0.7%増)、全体で 144 件、8.2%の増加です。

	H20	H21	H22	H23	増減件数	増減率
小学校	283	363	467	602	135	28.9%
中学校	1,334	1,439	1,300	1,309	9	0.7%
計	1,617	1,802	1,767	1,911	144	8.2%

(4) 対人暴力の発生件数

■ 小学校で 9 件 (40%減)、中学校で 19 件 (48.6%減) と減少しました。全体で 24 件、46.2%の減少です。

	H20	H21	H22	H23	増減件数	増減率
小学校	19	8	15	9	-6	-40.0%
中学校	61	16	37	19	-18	-48.6%
計	80	24	52	28	-24	-46.2%

(5) 器物損壊の発生件数

■ 小学校で 200 件 (14.9%増)、中学校で 534 件 (7.8%減)、全体で 19 件、2.5%の減少です。

	H20	H21	H22	H23	増減件数	増減率
小学校	171	219	174	200	26 件	14.9%
中学校	1,070	907	579	534	-45 件	-7.8%
計	1,241	1,126	753	734	-19 件	-2.5%

▲ 「暴力行為」の調査にかかる文部科学省の定義等

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、

被暴力行為の対象によって、次の 4 形態に分類し調査しています。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は調査対象外とします。

- ① 「対教師暴力」（教師に限らず、用務員等の学校職員も含む）の例
 - ・ 教師の胸ぐらをつかんだ。
 - ・ 養護教諭めがけて椅子を投げつけた。
 - ・ 定期的に来校する教育相談員を殴った。
- ② 「生徒間暴力」（何らかの人間関係がある児童生徒同士の暴力行為）の例
 - ・ 同じ学校の生徒同士がけんかとなり、双方が相手を殴った。
 - ・ 高等学校在籍の生徒 2 名が、中学校時代の後輩で、中学校在籍の生徒に対して暴行を加えた。
 - ・ 双方が顔見知りで別々の学校に在籍する生徒同士が口論となり、怪我には至らなかったが身体を突き飛ばした。
- ③ 「対人暴力」（対教師暴力、生徒間暴力を除く）の例
 - ・ 偶然通りかかった他校の見知らぬ生徒と口論になり、暴行を加えた。
 - ・ 金品を奪うことを計画し、金品を奪う際、通行人に怪我を負わせた。
 - ・ 学校行事に来賓として招かれた地域住民を足蹴りにした。
- ④ 「器物損壊」（学校の施設・設備等の損壊）の例
 - ・ トイレのドアを故意に壊した。
 - ・ 補修を要する落書きをした。
 - ・ 学校で飼育している動物を故意に傷つけた。
 - ・ 学校備品（カーテン、清掃道具等）を故意に壊した。

2 横浜市のいじめの認知状況【概要】

■ 小中学校のいじめの認知件数は、2,161件で、平成22年度に比べて61件増えました。

- ・ 本市のいじめ認知件数は、3年連続で増加しています。平成22年度は、児童支援専任教諭の配置が始まったことと「いじめ解決一斉キャンペーン」の実施により実態把握が推進され、大幅に増加しました。平成23年度は中学校では7.1%減少しましたが、小学校で10.4%増加しています。

(1) いじめの認知件数

■ 小学校で1,324件（10.4%増）、中学校で837件（7.1%減）、全体では2,161件で61件（2.9%増）増加しました。

	H20	H21	H22	H23	増減件数	増減率
小学校	399	511	1,199	1,324	125	10.4%
中学校	549	656	901	837	-64	-7.1%
計	948	1,167	2,100	2,161	61	2.9%

(2) いじめの認知学校数、1校あたりの認知件数、1000人あたりの認知件数

■ いじめを認知した学校数は、366校（74.2%）です。〔内訳：小学校238校（69.0%） 中学校128校（86.5%）〕

■ いじめの1校あたりの認知件数は4.4件です。〔内訳：小学校3.8件 中学校5.7件〕

■ いじめの1000人あたりの認知件数は8.0人です。〔内訳：小学校7.0人 中学校10.5人〕

		H20	H21	H22	H23	増減件数	増減率
小学校	認知学校数	138	164	226	238	12	5.3%
	1校あたり件数	1.2	1.5	3.5	3.8	0.3	8.6%
	1000人あたり件数	2.1	2.6	6.2	7.0	0.8	12.9%
中学校	認知学校数	128	128	129	128	-1	-0.8%
	1校あたり件数	3.8	4.5	6.2	5.7	-0.5	-8.1%
	1000人あたり件数	7.3	8.6	11.7	10.5	-1.2	-10.3%
計	1校あたり件数	266	292	355	366	11	3.1%
	1000人あたり件数	1.9	2.4	4.3	4.4	0.1	2.3%
	1校あたり件数	3.5	4.3	7.8	8.0	0.2	2.6%

(3) いじめの年度内解消率

■ いじめの年度内解消率は、92.6%です。〔内訳：小学校93.8% 中学校90.8%〕

20年度90.0%（小87.7%，中91.6%）→21年度89.5%（小88.9%，中89.9%）→22年度91.2%（小91.3%，中91.0%）→23年度92.6%（小93.8%，中90.8%）

(4) いじめの態様

■ 態様別の構成比に大きな変化は見られず、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」や「軽くぶつかる、遊ぶふりをして叩く、蹴る」、「仲間はずれ、集団による無視」など、おとなが気がつきにくい悪口や嫌がらせが「いじめ」全体の81.4%を占めています。

また、「ネット上のいじめ」といわれる「パソコンや携帯電話などの誹謗中傷等」については、件数及び構成比が減少しています。フィルタリングの普及や情報モラル教育の推進が効果を上げているものと思われませんが、潜在化している可能性もあり、引き続き注意が必要です。

※ 《参考『「ケータイ・ネット」から子どもを守る提言』<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/sidou1/jidoseito/pdf/keitainet-teigen.pdf>》

態様の項目	H22		H23		増減	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	1,555	53.9%	1,506	51.6%	-49	-2.3%
仲間はずれ、集団による無視	437	15.1%	392	13.4%	-45	-1.7%
軽くぶつかる、遊ぶふりをして叩く、蹴る	421	14.6%	477	16.4%	56	1.8%
ひどくぶつかる、叩く、蹴る	116	4.0%	139	4.8%	23	0.8%
金品をたかられる	28	1.0%	38	1.3%	10	0.3%
金品を隠す、盗む、壊す、捨てる	107	3.7%	142	4.9%	35	1.2%
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる、させられる	108	3.7%	111	3.8%	3	0.1%
パソコンや携帯電話などの誹謗中傷等	59	2.0%	54	1.9%	-5	-0.1%
その他	55	1.9%	58	2.0%	3	0.1%
件数合計[複数回答]	2,886	-	2,917	-	31	-

(5) いじめの発見のきっかけ

- 保護者の訴え、アンケート調査など学校の取組による発見が増えています。いじめの認知件数の増加は、いじめの解消率が上昇していることから、多くのいじめが認知され、多くのいじめが解消されていると考えることができます。
- ※ いじめの早期発見、早期対応を図るため、12月の「人権週間」に「いじめ解決一斉キャンペーン」を実施しています。

		H22		H23		構成比差
		件数	構成比	件数	構成比	
学校の教職員等が発見		1,055	50.2%	1,033	47.8%	-2.4 ㊦
内 訳	学級担任が発見	880	41.9%	842	39.0%	-2.9 ㊦
	学級担任以外の教職員が発見	95	4.5%	87	4.0%	-0.5 ㊦
	養護教諭が発見	11	0.5%	20	0.9%	0.4 ㊦
	スクールカウンセラー等外部相談員が発見	6	0.3%	4	0.2%	-0.1 ㊦
	アンケート調査など学校の取組により発見	63	3.0%	80	3.7%	0.7 ㊦
学校の教職員以外からの情報により発見		1,045	49.8%	1,128	52.2%	2.4 ㊦
内 訳	本人からの訴え	520	24.8%	506	23.4%	-1.3 ㊦
	当該児童生徒の保護者からの訴え	358	17.0%	405	18.7%	1.7 ㊦
	他の児童生徒からの情報	98	4.7%	101	4.7%	0.0 ㊦
	他の保護者からの情報	63	3.0%	100	4.6%	1.6 ㊦
	地域の住民からの情報	3	0.1%	6	0.3%	0.1 ㊦
	学校以外の関係機関からの情報	2	0.1%	6	0.3%	0.2 ㊦
	その他(匿名による情報など)	1	0.0%	4	0.2%	0.1 ㊦
計		2,100	100.0%	2,161	100.0%	0.0 ㊦

▲ 「いじめ」の調査基準

文部科学省は、平成18年度に関する調査からは、いじめられた児童生徒の立場に立って、より実態に即して把握できるよう次の様に「いじめの定義」を見直し、調査を実施しました。

本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

(注1) 「いじめられた児童生徒の立場に立って」とは、いじめられたとする児童生徒の気持ちを重視することである。

(注2) 「一定の人間関係のある者」とは、学校の内外を問わず、例えば、同じ学校・学級や部活動の者、当該児童生徒が関わっている仲間や集団(グループ)など、当該児童生徒と何らかの人間関係のある者を指す。

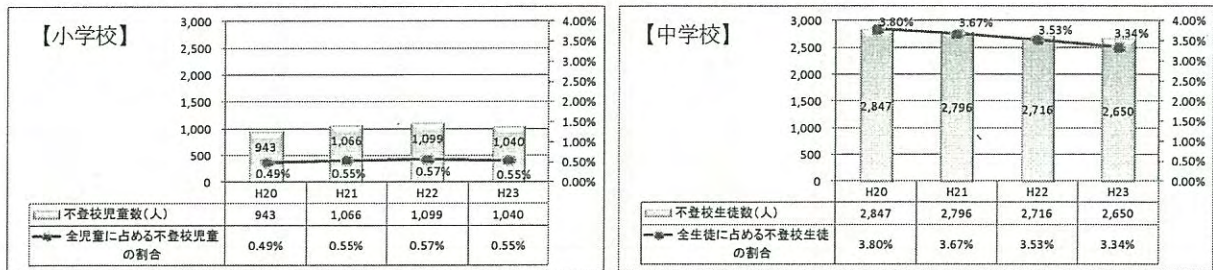
(注3) 「攻撃」とは、「仲間はずれ」や「集団による無視」など直接的にかかわるものではないが、心理的な圧迫などで相手に苦痛を与えるものも含む。

(注4) 「物理的な攻撃」とは、身体的な攻撃のほか、金品をたかられたり、隠されたりすることなどを意味する。

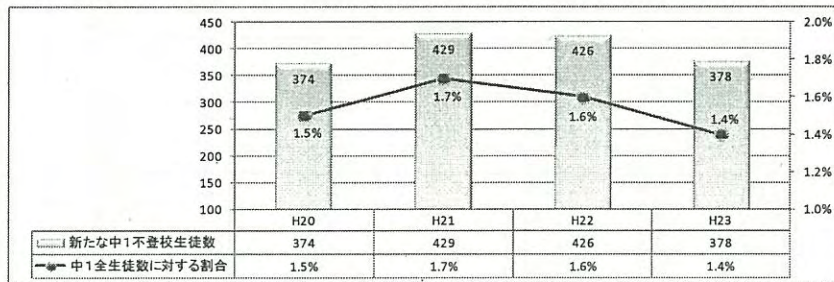
3 横浜市の不登校児童生徒の状況【概要】

(1) 不登校児童生徒数

小中学校の不登校児童生徒数は125人減少、長期欠席者数全体では46人減少しました。



- ・ 小中学校ともに減少しました。小学校は59人、中学校は66人減少しました。
- ・ 全児童生徒数に占める不登校の割合は小学校0.55%で0.02%、中学校3.34%で0.19%の減少です。
- ・ 学年別に前年度と比較すると、小学校では5年生以外の全学年で、中学校では、中1、中3が減少しています。
- ・ 30日～59日、120日～149日欠席した児童生徒が小中学校ともに減少。欠席日数別では30日～59日欠席した児童生徒数が小中学校ともに最多（小学校：371人で全体の35.7%、中学校：640人で全体の24.2%）です。
- ・ 小学校6年生で不登校ではなかったが、中学校1年生で新たに不登校になった生徒数は378人で48人減少です。



(2) 長期欠席者に占める不登校の割合（小中学校の合計）

	H20	H21	H22	H23
長期欠席者数	4,995人	4,903人	4,576人	4,530人
不登校児童生徒数	3,790人	3,862人	3,815人	3,690人
長期欠席者に占める不登校の割合	75.9%	78.8%	83.4%	81.5%

- ・ 不登校が占める割合は小学校61.2%、中学校93.5%で小学校は減少、中学校では増加しています。
- ・ 長期欠席者は、4年連続の減少となりました。

(3) 「指導の結果、登校できるようになった児童生徒」特に効果があった取組（上位3つ）

- ・ 指導の結果登校できるようになった児童生徒は小学校526人で74人、中学校は1,133人で8人の増加です。

※割合は「複数回答可」によるもの

小学校	①登校を促すため、電話をかけたたり迎えに行ったりした
	②保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった
	③家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った
中学校 (②は同数)	①登校を促すため、電話をかけたたり迎えに行ったりした。
	②家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った
	②スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった

(4) これまでの取組成果と今後の課題

これまでの取組成果	今後の課題
<p>◇ 長期欠席者が4年連続で減少し、中学1年生で新たに不登校になった生徒は2年連続減少です。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○ 児童生徒の実態に合わせて作成した登校支援アプローチプランに基づく支援及び小中一貫型カウンセラー配置等により中1ギャップが軽減されました。</p>	<p>○ 学校が不登校児童生徒一人ひとりの状態に応じた登校支援アプローチプランを作成し、具体的な支援を継続します。</p> <p>○ 9月以降、学校は過去の欠席状況や学習状況を踏まえた予防的な取組を推進できるよう、不登校対策アクションプランを修正し、通知します。</p>

1 「暴力行為」の発生状況の推移

形態	校種	年度	市立 学校数	学校内				学校外				内外計	
				発生 学校数	割合(%)	発生件数	増減率(%)	発生 学校数	割合(%)	発生件数	増減率(%)	発生件数	増減率(%)
対教師暴力	小学校	19	347	23	6.6%	62	-58.7%	0	0.0%	0	-100.0%	62	-58.9%
		20	346	36	10.4%	85	37.1%	1	0.3%	1	-	86	38.7%
		21	346	52	15.0%	103	21.2%	0	0.0%	0	-100.0%	103	19.8%
		22	345	52	15.1%	113	9.7%	2	0.6%	2	-	115	11.7%
		23	345	49	14.2%	115	1.8%	2	0.6%	2	0.0%	117	1.7%
	中学校	19	145	79	54.5%	304	19.2%	3	2.1%	9	0.0%	313	18.6%
		20	145	88	60.7%	359	18.1%	2	1.4%	2	-77.8%	361	15.3%
		21	145	88	60.7%	388	8.1%	4	2.8%	5	150.0%	393	8.9%
		22	146	82	56.2%	257	-33.8%	1	0.7%	1	-80.0%	258	-34.4%
		23	148	86	58.1%	253	-1.6%	0	0.0%	0	-100.0%	253	-1.9%
	計	19	492	102	20.7%	366	-9.6%	3	0.6%	9	-10.0%	375	-9.6%
		20	491	124	25.3%	444	21.3%	3	0.6%	3	-66.7%	447	19.2%
		21	491	140	28.5%	491	10.6%	4	0.8%	5	66.7%	496	11.0%
		22	491	134	27.3%	370	-24.6%	3	0.6%	3	-40.0%	373	-24.8%
		23	493	135	27.4%	368	-0.5%	2	0.4%	2	-33.3%	370	-0.8%

生徒間暴力	小学校	19	347	52	15.0%	175	65.1%	10	2.9%	14	40.0%	189	62.9%
		20	346	58	16.8%	273	56.0%	8	2.3%	10	-28.6%	283	49.7%
		21	346	86	24.9%	332	21.6%	22	6.4%	31	210.0%	363	28.3%
		22	345	86	24.9%	414	24.7%	29	8.4%	53	71.0%	467	28.7%
		23	345	100	29.0%	540	30.4%	44	12.8%	62	17.0%	602	28.9%
	中学校	19	145	133	91.7%	1,079	13.7%	69	47.6%	153	-1.3%	1,232	11.6%
		20	145	133	91.7%	1,130	4.7%	71	49.0%	204	33.3%	1,334	8.3%
		21	145	131	90.3%	1,233	9.1%	72	49.7%	206	1.0%	1,439	7.9%
		22	146	134	91.8%	1,151	-6.7%	100	68.5%	149	-27.7%	1,300	-9.7%
		23	148	144	97.3%	1,177	2.3%	60	40.5%	132	-11.4%	1,309	0.7%
	計	19	492	185	37.6%	1,254	18.9%	79	16.1%	167	1.2%	1,421	16.5%
		20	491	191	38.9%	1,403	11.9%	79	16.1%	214	28.1%	1,617	13.8%
		21	491	217	44.2%	1,565	11.5%	94	19.1%	237	10.7%	1,802	11.4%
		22	491	220	44.8%	1,565	0.0%	129	26.3%	202	-14.8%	1,767	-1.9%
		23	493	244	49.5%	1,717	9.7%	104	21.1%	194	-4.0%	1,911	8.1%

対人暴力	小学校	19	347	1	0.3%	1	-75.0%	1	0.3%	1	-50.0%	2	-66.7%
		20	346	3	0.9%	15	1400.0%	4	1.2%	4	300.0%	19	850.0%
		21	346	1	0.3%	1	-93.3%	5	1.4%	8	100.0%	9	-52.6%
		22	345	4	1.2%	10	900.0%	5	1.4%	5	-28.6%	15	87.5%
		23	345	2	0.6%	2	-80.0%	7	2.0%	7	40.0%	9	-40.0%
	中学校	19	145	9	6.2%	15	650.0%	13	9.0%	21	-40.0%	36	-2.7%
		20	145	4	2.8%	15	0.0%	28	19.3%	46	119.0%	61	69.4%
		21	145	4	2.8%	5	-66.7%	11	7.6%	11	-76.1%	16	-73.8%
		22	146	4	2.7%	10	100.0%	20	13.7%	27	145.5%	37	131.3%
		23	148	3	2.0%	3	-70.0%	14	9.5%	16	-40.7%	19	-48.6%
	計	19	492	10	2.0%	16	166.7%	14	2.8%	22	-40.5%	38	-11.6%
		20	491	7	1.4%	30	87.5%	32	6.5%	50	127.3%	80	110.5%
		21	491	5	1.0%	6	-80.0%	16	3.3%	19	-62%	25	-68.8%
		22	491	8	1.6%	20	233.3%	25	5.1%	32	68.4%	52	108.0%
		23	493	5	1.0%	5	-75.0%	21	4.3%	23	-28.1%	28	-46.2%

形態	校種	年度	市立 学校数	学校内				学校外				内外計	
				発生 学校数	割合(%)	発生件数	増減率(%)	発生 学校数	割合(%)	発生件数	増減率(%)	発生件数	増減率(%)
器物損壊	小学校	19	347	44	12.7%	145	40.8%	-	-	-	-	145	40.8%
		20	346	64	18.5%	171	17.9%	-	-	-	-	171	17.9%
		21	346	65	18.8%	219	28.1%	-	-	-	-	219	28.1%
		22	345	58	16.8%	174	-20.5%	-	-	-	-	174	-20.5%
		23	345	78	22.6%	200	14.9%	-	-	-	-	200	14.9%
	中学校	19	145	118	81.4%	883	16.0%	-	-	-	-	883	16.0%
		20	145	126	86.9%	1,070	21.2%	-	-	-	-	1,070	21.2%
		21	145	121	83.4%	907	-15.2%	-	-	-	-	907	-15.2%
		22	146	110	75.3%	579	-36.2%	-	-	-	-	579	-36.2%
		23	148	106	71.6%	534	-7.8%	-	-	-	-	534	-7.8%
	計	19	492	162	32.9%	1,028	19.0%	-	-	-	-	1,028	19.0%
		20	491	190	38.7%	1,241	20.7%	-	-	-	-	1,241	20.7%
21		491	186	37.9%	1,126	-9.3%	-	-	-	-	1,126	-9.3%	
22		491	168	34.2%	753	-33.1%	-	-	-	-	753	-33.1%	
23		493	184	37.3%	734	-2.5%	-	-	-	-	734	-2.5%	

暴力行為全体	小学校	19	347	81	23.3%	383	5.5%	10	2.9%	15	15.4%	398	5.9%
		20	346	96	27.7%	544	42.0%	11	3.2%	15	0.0%	559	40.5%
		21	346	127	36.7%	655	20.4%	25	7.2%	38	153.3%	693	24.0%
		22	345	116	33.6%	711	8.5%	32	9.3%	60	57.9%	771	11.3%
		23	345	134	38.8%	857	20.5%	50	14.5%	71	18.3%	928	20.4%
	中学校	19	145	140	96.6%	2,281	16.0%	75	51.7%	183	-8.0%	2,464	13.8%
		20	145	142	97.9%	2,574	12.8%	81	55.9%	252	37.7%	2,826	14.7%
		21	145	135	93.1%	2,533	-1.6%	74	51.0%	222	-11.9%	2,755	-2.5%
		22	146	143	97.9%	1,997	-21.2%	88	60.3%	177	-20.3%	2,174	-21.1%
		23	148	144	97.3%	1,967	-1.5%	64	43.2%	148	-16.4%	2,115	-2.7%
	計	19	492	221	44.9%	2,664	14.3%	85	17.3%	198	-6.6%	2,862	12.6%
		20	491	238	48.5%	3,118	17.0%	92	18.7%	267	34.8%	3,385	18.3%
		21	491	262	53.4%	3,188	2.2%	99	20.2%	260	-2.6%	3,448	1.9%
		22	491	259	52.7%	2,708	-15.1%	120	24.4%	237	-8.8%	2,945	-14.6%
		23	493	278	56.4%	2,824	4.3%	114	23.1%	219	-7.6%	3,043	3.3%

2 「いじめ」認知状況の推移

校種	年度	市立 学校数 A	認知 学校数 B	比 率 B/A	認知件数 C	認知件数 増 減 率	1校あたりの 認知件数 C/A	認知していな い学校数 D	比 率 D/A	1000人あたりの 認知件数
小学校	19	347	147	42.4%	442	-29.5%	1.3	200	57.6%	2.3
	20	346	138	39.9%	399	-9.7%	1.2	208	60.1%	2.1
	21	346	164	47.4%	511	28.1%	1.5	182	52.6%	2.6
	22	345	226	65.5%	1,199	134.6%	3.5	119	34.5%	6.2
	23	345	238	69.0%	1,324	10.4%	3.8	107	31.0%	7.0
中学校	19	145	125	86.2%	555	-22.5%	3.8	20	13.8%	7.5
	20	145	128	88.3%	549	-1.1%	3.8	17	11.7%	7.3
	21	145	128	88.3%	656	19.5%	4.5	17	11.7%	8.6
	22	146	129	88.4%	901	37.3%	6.2	17	11.6%	11.7
	23	148	128	86.5%	837	-7.1%	5.7	20	13.5%	10.5
計	19	492	272	55.3%	997	-25.8%	2.0	220	44.7%	3.8
	20	491	266	54.2%	948	-4.9%	1.9	225	45.8%	3.5
	21	491	292	59.5%	1,167	23.1%	2.4	199	40.5%	4.3
	22	491	355	72.3%	2,100	79.9%	4.3	136	27.7%	7.8
	23	493	366	74.2%	2,161	2.9%	4.4	127	25.8%	8.0

3 「いじめ」態様の状況についての推移

校種	いじめの態様	H19		H20		H21		H22		H23	
		件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
小学校	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。	321	44.4%	274	43.5%	349	46.8%	908	54.1%	931	51.5%
	仲間はずれ、集団による無視をされる。	153	21.2%	153	24.3%	148	19.8%	286	17.1%	248	13.7%
	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	102	14.1%	96	15.2%	133	17.8%	255	15.2%	318	17.6%
	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	27	3.7%	28	4.4%	29	3.9%	67	4.0%	69	3.8%
	金品をたかられる。	9	1.2%	10	1.6%	14	1.9%	12	0.7%	29	1.6%
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	45	6.2%	17	2.7%	27	3.6%	55	3.3%	89	4.9%
	いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	39	5.4%	27	4.3%	27	3.6%	50	3.0%	62	3.4%
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	9	1.2%	22	3.5%	11	1.5%	16	1.0%	17	0.9%
	その他	18	2.5%	3	0.5%	8	1.1%	28	1.7%	44	2.4%
	計[複数回答]	723	-	630	-	746	-	1,677	-	1,807	-
中学校	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。	351	38.8%	311	37.7%	395	43.4%	647	53.5%	575	51.8%
	仲間はずれ、集団による無視をされる。	158	17.5%	134	16.3%	125	13.7%	151	12.5%	144	13.0%
	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	141	15.6%	103	12.5%	128	14.1%	166	13.7%	159	14.3%
	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	34	3.8%	41	5.0%	48	5.3%	49	4.1%	70	6.3%
	金品をたかられる。	25	2.8%	15	1.8%	21	2.3%	16	1.3%	9	0.8%
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	69	7.6%	75	9.1%	58	6.4%	52	4.3%	53	4.8%
	いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	46	5.1%	51	6.2%	55	6.0%	58	4.8%	49	4.4%
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	69	7.6%	74	9.0%	66	7.2%	43	3.6%	37	3.3%
	その他	12	1.3%	20	2.4%	15	1.6%	27	2.2%	14	1.3%
	計[複数回答]	905	-	824	-	911	-	1,209	-	1,110	-

4 「いじめ」発見のきっかけについての推移

区分	H19		H20		H21		H22		H23			
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比		
小学校	学校の教職員等が発見	198	44.8%	135	33.8%	186	36.4%	607	50.6%	654	49.4%	
	内	学級担任が発見	145	32.8%	121	30.3%	169	33.1%	540	45.0%	556	42.0%
		学級担任以外の教職員が発見	9	2.0%	7	1.8%	13	2.5%	30	2.5%	32	2.4%
		養護教諭が発見	2	0.5%	3	0.8%	4	0.8%	3	0.3%	9	0.7%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	2	0.2%
		アンケート調査など学校の取組により発見	41	9.3%	4	1.0%	0	0.0%	32	2.7%	55	4.2%
		学校の教職員以外からの情報により発見	244	55.2%	264	66.2%	325	63.6%	592	49.4%	670	50.6%
	内	本人からの訴え	85	19.2%	83	20.8%	87	17.0%	258	21.5%	229	17.3%
		当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	113	25.6%	114	28.6%	142	27.8%	226	18.8%	283	21.4%
		児童生徒(本人を除く)からの情報	17	3.8%	32	8.0%	43	8.4%	60	5.0%	75	5.7%
		保護者(本人の保護者を除く)からの情報	29	6.6%	32	8.0%	52	10.2%	46	3.8%	70	5.3%
		地域の住民からの情報	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%	1	0.1%	5	0.4%
		学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	5	0.4%
その他(匿名による投書など)		0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%	3	0.2%	
計	442	100.0%	399	100.0%	511	100.0%	1,199	100.0%	1,324	100.0%		
中学校	学校の教職員等が発見	173	31.2%	217	39.5%	264	40.2%	448	49.7%	379	45.3%	
	内	学級担任が発見	114	20.5%	124	22.6%	159	24.2%	340	37.7%	286	34.2%
		学級担任以外の教職員が発見	43	7.7%	72	13.1%	79	12.0%	65	7.2%	55	6.6%
		養護教諭が発見	9	1.6%	9	1.6%	14	2.1%	8	0.9%	11	1.3%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	3	0.5%	4	0.7%	3	0.5%	4	0.4%	2	0.2%
		アンケート調査など学校の取組により発見	4	0.7%	8	1.5%	9	1.4%	31	3.4%	25	3.0%
		学校の教職員以外からの情報により発見	382	68.8%	332	60.5%	392	59.8%	453	50.3%	458	54.7%
	内	本人からの訴え	176	31.7%	154	28.1%	206	31.4%	262	29.1%	277	33.1%
		当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	138	24.9%	115	20.9%	123	18.8%	132	14.7%	122	14.6%
		児童生徒(本人を除く)からの情報	38	6.8%	35	6.4%	35	5.3%	38	4.2%	26	3.1%
		保護者(本人の保護者を除く)からの情報	18	3.2%	24	4.4%	20	3.0%	17	1.9%	30	3.6%
		地域の住民からの情報	4	0.7%	4	0.7%	4	0.6%	2	0.2%	1	0.1%
		学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	4	0.7%	0	0.0%	3	0.5%	2	0.2%	1	0.1%
その他(匿名による投書など)		4	0.7%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	
計	555	100.0%	549	100.0%	656	100.0%	901	100.0%	837	100.0%		

5 欠席日数別不登校児童生徒の推移

校種	年度	30日から59日	60日から89日	90日から119日	120日から149日	150日から179日	180日以上	不登校児童生徒数	児童生徒総数	出現率
小学校	19	382	208	133	103	83	123	1,032	191,127	0.54
	20	316	177	140	96	97	117	943	192,959	0.49
	21	346	228	131	114	94	153	1,066	193,390	0.55
	22	389	222	150	106	94	138	1,099	192,629	0.57
	23	371	212	139	92	94	132	1,040	190,265	0.55
中学校	19	751	463	377	404	365	481	2,841	74,038	3.84
	20	730	461	401	378	394	483	2,847	75,004	3.80
	21	709	469	397	337	396	488	2,796	76,260	3.67
	22	687	406	387	363	373	500	2,716	76,964	3.53
	23	640	453	384	346	338	489	2,650	79,458	3.34

6 学年別不登校児童生徒の推移

校種	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小学校	19	59	97	128	186	257	305	1,032
	20	44	79	123	184	234	279	943
	21	71	80	125	174	288	328	1,066
	22	78	114	156	189	248	314	1,099
	23	64	90	136	172	275	303	1,040
中学校	19	699	996	1,146	-	-	-	2,841
	20	645	1,053	1,149	-	-	-	2,847
	21	668	967	1,161	-	-	-	2,796
	22	710	928	1,078	-	-	-	2,716
	23	652	941	1,057	-	-	-	2,650